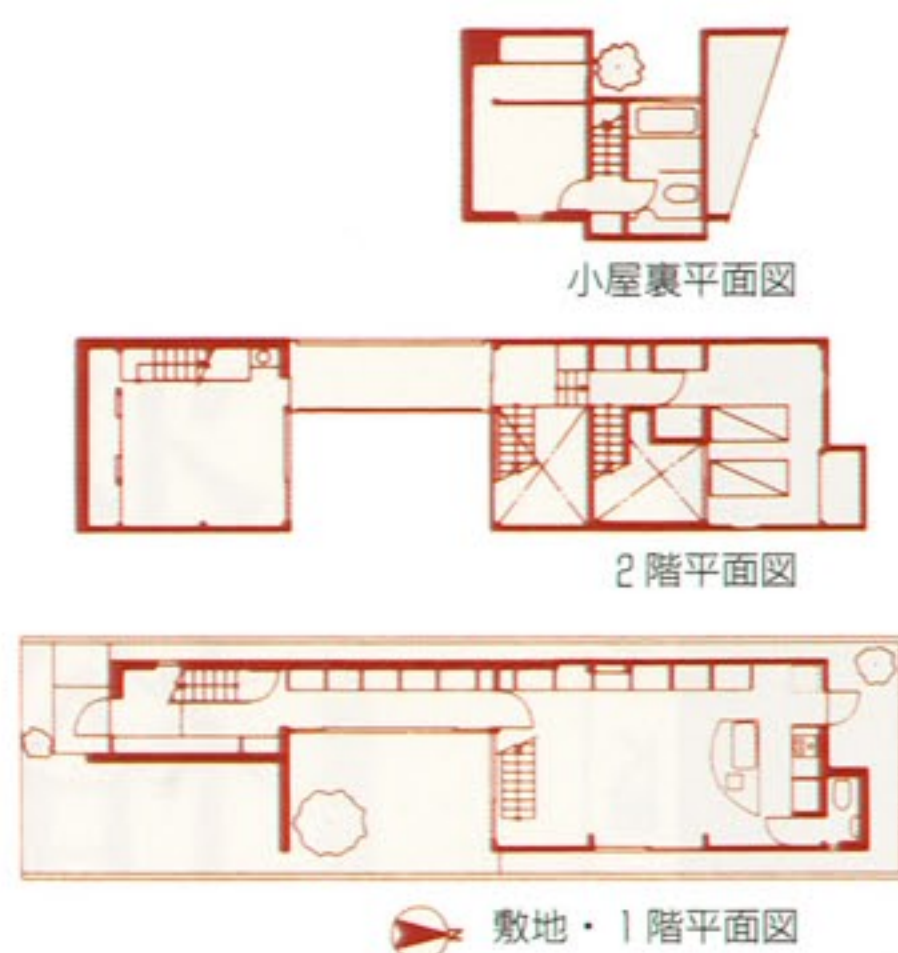


Data

- 家族構成 夫婦+子供1人
 - 敷地面積 110.40㎡ (33.40坪)
 - 1階面積 47.43㎡ (14.35坪)
 - 2階面積 54.05㎡ (16.35坪)
 - 延床面積 101.48㎡ (30.70坪)
 - 構造 RC造+木造2階建
 - 総工費 3000万円
- 撮影/村井 修 (WORKS1,2,3)



中庭を望む北側の大きな開口とトツ
ブライトからいつも安定した柔らかな
光が差し込み、1階とは雰囲気
違う静かで落ち着いた大人のリビング
です。内部を広く使うために、
天井に向けて壁を外側に斜めに張り
出させたのもこの部屋のポイント。
このため外壁が庇のような役割を果
たし、外壁の耐久性を高めることに
もつながっています。

小屋裏の見所はなんとといってもデ
ッキに隣接する明るく気持ちのよい
バスルームです。デッキは屋根の中
を掘り込むようにして設けられてい
るために周囲の視線をカットでき、
ここで湯上がり後に裸のまま寝ころ
んだり、ビールを飲んだり心ゆく
までくつろぐことができます。敷地
のハンディを巧みな設計で見事克服
した好例といえるでしょう。

丁邸があるのは間口5.4m、奥行
20.3m、南北に細長く伸びる37坪の
敷地。ここに夫婦の希望である開
放的で快適な住まいを実現するため
越賀さんはコートハウスのプランを
採用することにしました。敷地中央
に中庭を設けることで家全体に採光
や通風が行き渡り、ブライパシーを
確保しながら開放感を得ることがで
きるからです。1階は中庭を挟んで
駐車場と玄関、LDK。中庭に面し
た南側を全面開口にしたLDKには、
一日中明るい陽射しが差し込みます。
リビングと一体になった中庭はお嬢
さんの格好の遊び場。キッチンから
も目が届き、奥さまも安心です。
2階はセカンドリビングとご夫婦
の寝室。書斎も兼ねたこの空間は、

「敷地のハンディも、内部空間との 楽しいかわりをもつことで克服」

東京都 丁邸

WORKS 1

流行にとらわれない自分だけの家をつくらう

いろいろな事に興味を持ち、いろいろな事を考えたり空想
することが好きというだけあって、柔軟な発想が空間づく
りにいかされている。たとえば様ざまな住まい方を工夫で
き、永く住み続けられる「ワンボックス住宅」の提案。文
字通り、一つの大きな空間が多様に活用できる巣箱よう
な住宅。そして、ホッとできる空間がありリラックスでき
る家こそ心地よいと考える。そのためには自然素材を使い、
周囲の環境とも調和し、かつ内部空間との楽しいかわり
を持つ住宅を心がける。「住む人が何を住宅に求めている
のかを明確にすること」が家づくりには大切だという。だ
から、楽しく自分だけの家をつくらうと。今、ロードバイク
にはまっている。最近、箱根を越えて静岡まで自転車
で走破したそう。好きな本は藤原新也の「印度放良」、高木仁
三郎の「いま自然をどうみるか」。

越賀克郎 (こしが かつろう)

●1948年生まれ。'71年明治大学工学部建築学科卒業。名取建築事
務所、コム設計に勤務した後、ヨーロッパ、アジア地域の建築研究
を行なう。'78年現事務所設立。

株式会社

越賀一級建築士事務所
東京都新宿区西新宿4-32-6
パークグレイス新宿509
TEL 03-3377-8800
FAX 03-3377-8801
URL <http://www.sekkeikoa.com>
E-mail koa@mud.biglobe.ne.jp

029



右頁●キッチンから中庭方向を見る。アイランドキッチンに対面させて半円のテーブルを造り付けた。上●「大人のリビング」から中庭と屋上通路を挟んで1階のリビングを見る。家族が別々の部屋にいらしても、中庭を介して互いの気配が感じられる。下●南側外観。1階が駐車場、その上が「大人のリビング」。屋根に向けて広がった外壁がユニーク。



Koshiga Katsuro
越賀克郎

(株)設計コア・越賀一級建築士事務所

